

# おがわ

小川村ふるさと通信



今年も早春の福の訪れを見つけました

(写真 松本博充)

- おがわ熟年大学
- 二十歳を祝う会
- 小川に生きる
- 歴史探索 - 志神原 -
- 人生百年 私の生きがい
- 生活古道②
- 図書室だより
- 音楽とワインを楽しむ夕べ
- 路端の小さな命⑥





# おがわ熟年大学

「おがわ熟年大学」は受講生四十名とともに10月19日にスタートいたしました。

開講式後、第一回「大地震に備えるための地域の取り組みとはなにか」の講義が、信州大学廣内大助教授の関東大震災から100年目の節目、平成26年11月に発生した神城断層地震から9年目が経過するにあたり、防災への取り組みについて学習ができました。

第二回は11月9日「お酒の事をよく知ろう」と題し、信州大学田中直樹教授による普段の食事と健康診断書結果から生活習慣の食事の在り方について学習しました。

第三回は11月22日「屋外研修 安曇野方面」で大町博物館めぐりで旧中村家住宅、国

営あづみの公園、市立大町山岳博物館の3館めぐりと、安曇野市大王わさび農場で昼食をとり、コロナ禍で4年ぶりの楽しい研修となりました。

第四回は、社会福祉協議会と保健センターの協賛で、「文化講演会」に百八十名の皆さんが出席され、フリーアナウンサー宮本隆治氏が「ゆとり・ユーモア・帰りは元気！」と題して人前で緊張しないコツ、NHK時代のエピソードなどを講演いただきました。また、実父との体験から生み出されたオリジナル「ハシカベ体操」を実践し、会場内全員と普段使わない腹筋、肺、声帯、へ口（舌）を動かし、会場内が熱くなりました。



第五回は、人権週間にあわせ「子どもの人権と適切な保育」と題して清泉学院短期大学長谷川孝子教授の講演が開催され、子どもの個性を尊重し、自分らしい花を自分の力で咲かせられるような人に育って行くには、大人が良しとする価値観を子どもに教え込むのではなく、昔は当たり前のことが、今は通用しないなど大人の価値観を改めな

③屋外研修(あづみ野)

④文化講演会

くってはいけない時期に来ていることを知りました。  
第六回は前年に引き続き信濃家一門の信濃家中蔵、信濃家あい橋のご両人の「新春お笑い講座」落語を開演しました。熟練した古典落語の語りに聞き入り、笑いのオチにはまる受講生がいました。

第七回は、音楽はいつも時代の記憶と結びついている「音楽リフレッシュ 明日も笑顔でいるために」と題して清泉女学院短期大学山崎浩教授が、NHK朝ドラ「ブギヴギ」の音楽を担当しているモデル「服部良二」を紹介し、戦後歌い続けている「青い山脈」をピアノ演奏で元氣よく歌いはじめ、昭和年代ごとの懐メロの紹介と一緒に歌うことで気持ちが明るく軽くなりました。

第八回は、「紙芝居昭和史」かみしばいを知ると懐か



⑤人権講演会



⑦昭和の懐メロ



⑧紙芝居昭和史

しい昭和の世相が見えてくる」と題して清泉女学院短期大学塚原成幸教授が講演。教授は紙芝居をライフワークとして40年以上活動してきています。紙芝居の歴史は、日本発祥の文化が世界に広がり、年齢、性別、人種、信仰などにこだわらずに多様な人材を生かすと紹介されました。

最終講義の第九回は、「健康寿命を延ばす小さな習慣」と題し、長年にわたり村民の健康管理指導をいただいている理学療法士加藤弘貴氏の講演と健康指導を受けました。小川村の健康管理に長年携わり、訪問診療や定期講習会を開催するなど治療相談は好評であります。受講生も自身に関係することが多いのか真剣な態度で受講されていました。

3月1日に全講義は終了を迎えました。終了後、染野隆嗣村長をはじめご来賓のご列席をいただき「閉講式」を開催し、受講生に修了書授与を行いました。修了書を受け取る皆さんには達成感と一抹のさみしさが感じられ、次年度の「おがわ熟年大学」に期待の笑みを浮かべ席を立たれて行きました。

「おがわ熟年大学」は高齢社会における生涯学習としての重要な機能を担ってきました。今後も高齢者学習として新たな感覚と内容充実をはかり、会話・交流の場などを検討し、参加者拡大に向けて更なる取組を進めてまいります。

# 新たな未来へ 二十歳を祝う会



令和6年1

月3日、小川

村公民館で令

和六年小川村

二十歳を祝う

会が行われま

した。昨年連

休明け5月8

日に、新型コ

ロナウイルス

の感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、マスク着用がない開催となり、対象総勢16名のうち13名が出席し、これからの人生にあたりお祝いの言葉や仲間の言葉に責任を感じているようでした。

式終了後は中学時代に書いたタイムカプセルの手紙を



女子4名



男子9名

恩師から受け取り、当時との思いを確認し夢に向かって挑み、進んで下さい。

二十歳のスピーチを一部抜粋で紹介いたします。

## ★代表者挨拶

岡田 羽立さん

小川で育った私たちは今、それぞれの道を進んでいます。大学や専門学校で日々勉強に励んでいる人、就職し毎日仕事に奮闘している人など、おかれている立場は異なりますが、それぞれが自分の目標に向かって日々



# 抱負



邁進しています。責任ある行動と周囲の人に気を配った対応のできる、そんな大人になっていけるように努めてまいります。  
大好きな小川村がいつも変わらなくにあることを、心から願っています。

※今年も先輩である和田勇巳さんが撮影編集のダイジェストムービーをご覧いただけます。  
左上のQRコードからお楽しみください。



二十歳の夢を確認

恩師からタイムカプセルを受け取る





和田 庄市さん  
(味大豆)



「昔は林業が盛んで新潟や群馬まで材木の集荷に行ったもんだよ。」と懐かしそうにお話をしてくださったのは和田庄市さん

ん86歳。5・6年前まで『和田林業』を営んでいました。庄市さんは5人兄弟の長男として生まれましたが、7歳の時に父親が亡くなり、それ以降、祖父に育てられました。中学校卒業後は高校進学を望んでいましたが、中学校卒業の頃にそれまで父親代わりで育ててくれた祖父が亡くなり、一家を支えるため進学を諦め百

姓をすることになりました。しかし、百姓を継いだものの現金収入が少なく、何とか現金収入を増やせないものかと考えた庄市さん。その頃、山から切り出した材木を薪として学校や駅などに売っているということに目をつけ現金収入になると思い林業を始めることにしました。

林業は、一人で出来る仕事ではないため、近所の人に声をかけ一緒に作業したそうです。徐々に、仕事軌道に乗り始め、小川の山はもちろん、中条や信更の山でも仕事をしたそうで、多い時には10人ほど雇い、従業員が寝泊まりできるように作業小屋の2階に部屋を準備し、四国から炊飯する人も住み込みで来ていた時期もあったそうです。また、毎年11月から3月までは大町に下請けを頼むくらい繁盛していたそうで、まだ残る作業小屋には使用していた道具がいくつが残っており当時の活気が感じられました。そんな林業で一番大変だったことは「力仕事」と、意外にも「営業」だったそうです。山や材木の売買は人との交渉になるため、力仕事とはまた違った大変さがあったようです。

このように林業が栄えた背景には、国産の木の需要が大きく高値で売買され、50年前ほどまでは山の木の伐採、植え替えをすると補助金をもらえる制度もあったからのようです。しかし、海外から材木が輸入されるようになり、次第に林業が衰退し始めたそうです。

「昔は山が売れた。木の価格は本数と大きさで決まった。寺や神社で使われた樺の木なんて1本100万円の時もあった。小川に家具を作る職人もいた。でも、外国の木が入ってくるようになって国産の木は価格が下がり売れなくなって、ダメになった」と残念そうに話す庄市さん。林業は生活のためにやった仕事で、ご自身のお子さんが女の子だったということもあり、庄市さんは自分一代で林業は終わるつもりでいたそうです。

一代で林業を築いた庄市さんが今思うことは、「この仕事に携わる人も減り、伐採適齢期になった木が伐採されず荒れた山が増えている。そんな雑木山を切り開き、国産材木を昔のように利用してもらいたい。」ということです。ご自宅には自分が切り出した

木で作ってもらったという家具がいくつか置いてあります。どの家具もどっしりと重厚感があり、味のある木の色合で国産材木の良さを改めて実感しました。

今回取材し、国産材木の良さを知ることができ、その材木を供給する職業としてはもちろんのこと、環境保全という視点からも林業は絶やしてはいけない産業だと思いました。

材木を動かす「とび」



仕事で活躍したチェーンソー



## 歴史探索

# 「志神原」

小川村の東の玄関口「夏和山部市之口集落」から「鴨之尾三貫地集落」まで土尻川左岸に迫り出した尾根の



広い原っぱを「志神原」と呼ばれていることを信じますか？

今回は志神原周辺が時代とともにどのように変化したのか関連を調べてみました。

### ☆150年前に街道？

#### ○竹生街道

明治7（1874）年まで市之口から登り、志神原を通って、今の夏和区生活センターまで下る街道を竹生街道と称し、江戸の松代藩統治以前の

時代から、人・物資など往来に利用されてきました。また、夏和山部、花尾外石、上野柏土、成就への峰通への接続古道として今でも一部で道方が残っています。（道路の車道と、一部手入れが行き届かない場所は、藪に覆われています。）

### ☆当時の情勢を整理…

#### ○明治新政府が行った政策

- 明治3年、身分制の廃止令
  - ↓ 士農工商から四民平等の新しい時代へ
  - ↓ 苗字の使用（後の戸籍法）
- 明治4年、貨幣法の改正
  - ↓ 旧貨や藩札から新貨に引き換え
- 明治4年、地券の交付
  - ↓ 土地の所有を認める
- 明治5年、学制が制定
  - ↓ 学校開設
- 明治5年、太陽暦の採用
  - ↓ 12月2日で翌年1月1日に
  - ↓ 当時の暦は太陰暦（旧暦）、翌年潤年の13

カ月は財政的に給与支払いが厳しく、太陽暦（新暦）12ヶ月に切り替えた

長野から大町間の「高府街道」は明治27年「大町街道」と改称されました。

### ○高府街道

明治6年1月に竹生、夏和、上野、花尾の4か村が「竹生村」に合併、明治8年8月に竹生村と久木村が合併し、「高府村」が誕生。来年で改名150年目を迎えます。

この年、志神原の竹生街道を登らず、土尻川左岸に新設街道「高府街道」が出来ました。

### ☆オリンピック道路新設とともに

#### ○県道長野大町線

●平成10（1998）年冬季長野オリンピック開催に合わせ、長野白馬間の道路整備が行われました。これにより、志神原から土尻川へ突き出した尾根2か所を削り取り、長野から白馬間の道路アクセスが良くなり、日当たりや風通りが増しました。

### ☆疑問 「竹生」↓「高府」

○なぜ名称を改名したのか？

●当時、竹生村の合併書類を、県の役人が「チクシヨウ」と呼び間違えた。村役人が恥をかけたため改名したとあります。

#### ○地形が変わる前は…

●春の突風で、西風が鴨之尾地区を強く通り抜けていました。過去の火災で昭和28年4月子供の火遊びで鴨之尾1件の火の元から、強風にあおられ東側の大川4件へ飛び火し、火災の灰は、隣の中条住良木の花園地区まで舞っていったと地元の方が話されました。

### ○大町街道

●道路改良は地元の関係自治体の義損金の割当で行われていました。道路改良とともに運送業も発達し、

●夏は風が通らず蒸し暑く、稲作では毎年イモチ病が発生していました。

## 人生百年 私の生きがい

### 天然色素に魅せられて

松本 博子（成就）

松本さんは、長野市中条の保育園に長年  
にわたり勤務し、保育・幼児教育に携わり子  
供たちの成長を見守ってきました。

平成19年に「工房 食彩」を開設し、農産物直売所、  
道の駅などでやしうまの販売を始めました。

お釈迦様が入滅された2月15日の涅槃会ねはんえのお供え物か



らはしまった「やしうま」。  
名前の由来には、団子を手  
で少し固く握ると馬の形に  
似ているところから「やせ  
馬」↓「やしうま」と訛まじ  
たと言われています。また、  
お釈迦様がお亡くなりにな  
られるとき、弟子の中の「ヤ  
シヨ」が、米の粉で作った



お団子を差し上げた  
ところ、お釈迦様が  
「ヤシヨ、うまかった  
ぞ」と言ったところ  
からついたとも言わ  
れています。

基本の形は細長い棒状の団子を凸状にしたもので、三  
角形に似たもの、真ん中のくびれた分銅形、花卉の形を  
したものなど様々あります。松本さんは梅や桜、パンダ  
やクマなどの絵柄のやしうまを数多く作られています。  
絵柄は無限にあり、工夫次第でどうする事もできるの  
で、奥が深いけれど考えることが楽しくて仕方ないそう  
です。

心掛けていることは「見て楽しむ」「食べておいしい」「誰  
もが安心して食べられる」なので、米粉も自家米、着色  
のビーツも栽培するようにしたそうです。

一人でも多くの方に知ってもらいたい、作ってもらいた  
い、次世代の人に伝えたい、この気持ちで松本さんのや  
しうま作りの手を止めさせないようです。



# 桐山

※車社会になる前まで毎日使っていた細い生活道路を、生活古道として紹介します。



染野利喜雄 (二反田)  
(元郵便局員)

前号に引き続き、昭和40年前後の地域で使われていた生活道路について、毎日郵便配達をした方に再度お話を伺いました。

朝8時に郵便局に出局した染野利喜雄さん。郵便物の配達組みと新聞屋から届いた朝刊を持って、局を出発します。

最初の配達ポストは瀬戸川と小川川の合流の川手地区の土合から、小川川の上流を目指して沢沿いの坂、奈良尾、芋之沢、脇道を上り下りの出法、楮畑を進み、沢之宮の手前を水谷に上り、神楽岡、久津の桐山診療所・桐山分校を配達し、お昼は指定場所ですて休憩します。午後は山を越えての白地、西の尾根沿い下の今崩、沢筋に下る間瀬口から天狗岩を登って李平、石原牧を下って沢之宮、美麻の青具からの古道へつながる村境手前の野間へ上り下りし、16時頃までに局に戻るコースを一筆書きで網羅します。

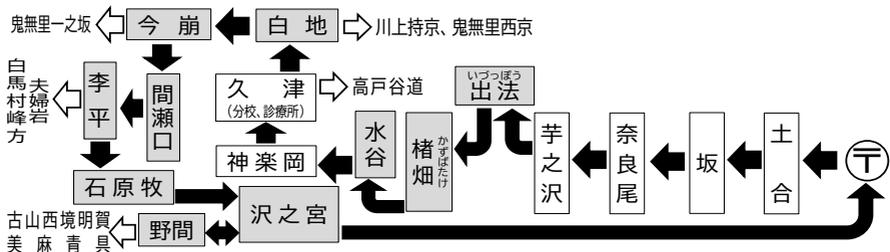
桐山区域内は谷を隔てた集落を行くに、郵便物が無くても、新聞の朝刊を郵送で購読している個人宅へ毎日配達したそうです。

芋之沢から楮畑の間は、岩が迫り出し、青木立、七八城を通るに落石に注意しながら、歩いたと話されました。

それから10年間、バイクや車が増え、徒歩からの配達から、バイクによる配達へと切り替わり、交通が不便な集落を対象に集落整備事業を活用し、集落移転が行われるとともに、細い生活道路は使われず草木に覆われていきました。

※お詫び 全号の掲載で、「中学校を卒業」と紹介しましたが、「高校を卒業」の誤りです。

配達コース (塗り潰しマスは、住居人がいない集落)





冬のミニイベント

「図書室に遊びこもうぞー!」

昨年12月16日土曜日、公民館にてクリスマススイベントを開催しました。村在住の子ども18人と大人達が集まり、図書室は華やかな雰囲気になりました。3時間のプログラムは自由度が高く、図書委員による読み聞かせを堪能するもよし、クリスマス折り紙を楽しむもよし、お気に入りの本を静かに読むもよし、参加者が過ごし方を決めました。読み聞かせは10冊以上に及び、季節絵本に加え、リクエストで五味太郎「さるるるる」「さるるるるるるる」など思わず笑みがこぼれるような本もありました。

そして、特別企画のお菓子パーティーは大盛り上がり! 図書室隣の談話室をクリスマス風に飾り付けて、持ち寄りのお菓子を分け合って食べました。見た目にもおなかにもインパクトがあったのではないのでしょうか?

小川村の子どもたちは本が好きなことを改めて感じた微笑ましいイベントとなりました。



図書委員の読み聞かせ。  
「12月のクリスマス」  
「サンタさんありがとう」など



図書室の本棚もクリスマス仕様に



テーブルに並んだ山盛りのお菓子に大興奮!



折り紙コーナー。サンタさんやツリーなどの小さなものからリースの大作まで

## 【デジとしょ信州】活用 本を通して、 英語力を育む



デジとしょ信州を利用した実際の画面

「デジとしょ信州」は、県民なら誰でも無料で利用できるオンライン図書館サービスです。その特徴の一つに英語本をネイティブが読み聞かせする機能があるのをご存じですか？

例えば、「はらぺこあおむし」(THE VERY HUNGRY CATERPILLAR)の英語本を借りて、画面上でページをめくっていくと同時に英語ナレーションが流れます。家で専門性の高い英語教育も可能だと、最近愛用しています。本の種類も多いので、ぜひ試してみてください。

## 図書室の 楽しみ方 ↳ 談話室

公民館にある談話室は知る人ぞ知る憩いのスペース。誰でも予約なしで利用できる多目的な場所として開放されています。飲食OKなので、読書の合間のひと休みに、お仲間のお茶時間にと、気軽に利用してみてくださいね。



## 談話室

本棚の本を借りることもできます。  
新聞も常設

## ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ 本のプレゼント～

## 『子どもに読んで聞かせたい本は？』

令和5年5月生まれの赤ちゃん

『わたしのワンピース』  
にしまきかほこ



もりや  
守屋  
あんな  
杏ちゃん

『パンとろほつと  
なぞのフランスパン』  
柴田ケイコ



なかぢろ  
中村  
あかり  
朱莉ちゃん



司会のお二人

2月10日(土)、小川村公民館で第12弾「音楽とワインを楽しむ夕べ2024」むらびどの交流パーティー編が4年ぶりに視聴覚委員会の企画により開催されました。今回4組の演者による素敵な歌と演奏と語り部とともにワインを嗜みました。

1組目(写真①)は、アコースティックギターでフォークソングを弾き語る味大豆の和田重孝さんと栗本の田澤正信さんの2名によるアコギ会。先日歌

手で亡くなった谷村新司さんがグループ活動したアリスの「チャンピオン」などフォークソング大盛期の昭和ソング演奏がありました。続いて2組目は島田の酒井若菜さんがウクレレの弾き語りによる心が



①

ホッとする歌声を聞かせてくれました。3組目(写真②)は、柏土の太田冨加さんが絵本の読み聞かせを行い、優しい語り口調で来場者を惹きつけてくれました。バックミュージックはウクレレの酒井さんが協力!



4組目(写真③)の最後のトリを一週間前に急ぎよ結成したバンドでピアノの下北尾の江口歩さん、バイオリンの向清水坂の和田博之さん、ボーカルの上野の塚田綾子さん、ギターの和田優孝さんの4人による素敵な演奏が行われました。

③

演奏の合間には、徳武道人さんと山口から会場を盛り上げていただき、イベントの名のとおりでたくさん交流が図られました。

会場の音響、照明、映像上映などで支えていただいた視聴覚委員の皆さん(写真④)ありがとうございました。



②



④

# 小川村文化協会 作品展・ステージ発表会

3月2・3日、小川村公民館にて小川村文化協会作品展・ステージ発表会が5年ぶりに開催されました。



- ① 岳響
- ② キッズダンス
- ③ 中学校吹奏楽部
- ④ 雅楽
- ⑤ 詩吟
- ⑥ 謡曲
- ⑦ ⑧ 作品展

## お知らせ

※長年協力頂いた方に表彰の授与がありました。

### ◎社会教育・公民館関係

□長野県社会教育委員連絡協議会表彰

- ・西沢榮之助 前小川村社会教育委員 12年間
- ・古屋 源吾 前小川村社会教育委員 12年間

□長野県公民館運営協議会公民館活動推進功労者表彰

- ・松本 貴秀 前小川村公民館長 7年6ヶ月
- ・丸田 勉 小川村公民館視聴覚委員 41年6ヶ月
- ・大久保雅夫 小川村公民館視聴覚委員 37年6ヶ月
- ・和田 久憲 小川村公民館視聴覚委員 33年4ヶ月

### ※第十一代小川村公民館長の掲額式が5

月19日に行われ  
ました。



自 平成27年10月1日  
至 令和5年3月31日

路端の隅でたずんでいる動植物や石造物について紹介します。このコーナーに情報を提供されたい方は公民館までご一報ください。

## シリーズ 路端の小さな命 ⑥

### 春のうごめきを呼ぶ

#### 福寿草

##### ♥春を告げる福寿草

雪解けの大地にいち早く春の訪れを告げる花、福寿草。江戸時代には一番に春を告げるという意味で「福告ぐ草」と呼ばれて

いたそうで、開花期間が長く長寿を呼ぶめでたい花としても愛されてきました。そんな縁起のいい福寿草の花言葉は「永久の幸福、思い出、幸福を招く、祝福」。春を呼び、幸せを招く福寿草について改めて調べてみました。



##### ♥共存物語?

福寿草が咲き始める頃、冬ごもりしていた虫たちも春の気配を感じ活動を始めます。まだ寒さの残る中、そこには福寿草と虫たちの共存物語があります。おわん型をした福寿草の花は、太陽光を花の中心に集めることで、外気温よりも10度高くなります。蜜

のない福寿草は他のどの山野草よりもいち早く咲き、蜜の代わりに集めた太陽光の熱で、寒さで活動能力が鈍い虫たちを誘うのです。福寿草で温まった虫たちは、元気になり次の福寿草へと花粉を運びます。こうして、春一番に開花する福寿草と虫たちは、お互いを助け合う関係を築いています。

##### ♥巡り来る春に

まだ冬の寒さが残る冷たい大地から黄色の可愛らしい花を咲かせる福寿草を目にすると、厳しい冬が終わる安堵感と、春の日差しへの暖かさを感じ幸せな気持ちになります。そして、冬ごもりしていた虫たちが春の気配にうごめくように、私達も新しい生活や物事の始まるにあたり気持ちが一新します。

福寿草をはじめ、春の訪れを教えてくれる山野草に恵まれた自然豊かな村の環境に感謝し、来年も巡り来る春の訪れを楽しみたいと思います。

#### 一文字 歳時記

#### 蠢うごめ (く)

前文の情景を漢字一文字に変換!!

館報おがわ (233号)

小川村公民館 / 〒381-3302

長野県上水内郡小川村大字高府 8695

発行所: 松本利光

編集者: 松本博充

TEL・FAX: 026-269-2077

E-mail: komin@vill.ogawana.gn.jp

令和6年3月14日発行